

## カブトムシ

澄川森林避難小屋前で冬期作業の焚火用薪作りをしていました。三橋さんがなにやら大きな黒い虫を近くに立つキハダの幹に這い昇らせているのに気づきましてクワガタ虫の♀かな、と思いつつクワガタかを確認したくて捕まえましたところ、カブトの♀だと言われまして、納得した次第でありました。柿沼さんに持っていただきまして撮影したのが右の画像であります。画像の記録は2017年9月2日12時27分でした。



出会った場所が物置や焚火場を置いた基地広場とのことなので、その昔(2007年)荒船さんの職場だった札幌南ゴルフクラブ駒丘コースの刈り芝堆積場で大量発生していたカブトムシの幼虫や蛹から成虫をあわせて100匹以上を掘りだして頂戴しまして、円山動物園と幌南小学校と分け合しまして、わが方の取り分の幼虫と蛹数十匹を当時基地まわりに作っていたピオトープ2カ所に埋めたのです(森ホラ通信62号2007年7月号記事参照)。その子孫が現れてくれたものと思ひまして嬉しくなった次第でありました。



カブトムシは漢字表記で兜虫です。カブトすなわちヘルメットなのですが、往年の武将たちが競ってオドロオドロしい飾りをつけたヘルメットを作るに際して鹿や牛の角に伍してこの虫のみの角を模した前立ての鍬形をつけたものが多くあるのは事実で、ネットで兜と検索しますと、ズラリとカブトムシ型の鍬形の兜が並びます。

昆虫少年時代に幾度かこの虫に出会いましたが、その都度胸がときめいたことでした。多摩市に住んでいた頃、近くの林の中での樹液を出している樹を知っていましたので、わが息子ともども近所のガキ共をひきつれまして、カブトやクワガタを採集したことが懐かしい思い出であります。時には懐中電灯をたよりに夜の樹液場に案内したこともありました。

和名を命名するにあたり武将たちの兜にちなんだものだと思いますが、この虫が往年の武将たちの子供時代からの憧れを感じまして、この虫の角型の鍬形を採用した武将たちに親しみを感ずる次第であります。

